

図書館だより



休館日… 5月5日(火)
 ・7日(木)・毎週月曜日
 祝日開館日… 6日(水) 9時～17時
 日曜日の開館時間… 9時～17時

◆5月は図書館振興の月です。

4月30日は、図書館記念日です。1950年(昭和25年)図書館法が公布されたのにちなんで、日本図書館協会が1972年(昭和47年)に制定しました。図書館法の制定を契機に、サービスとしての公共図書館の機能が明らかにされ、利用の無料原則がうたてられました。そして、これに続く5月が「図書館振興の月」と定められました。

◆4月23日～5月12日は「子どもの読書週間」

子どもの読書の重要性の理解や関心を高めるため、また、子どもの読書の普及と推進を目的として読書推進運動協議会が主催しています。

◆図書館カードを作りませんか？

登録は0歳から可能です。児童書は貸出の冊数制限はありませんので、図書館の本を有効活用してください。※ホームページから蔵書検索や行事案内などがご覧いただけます。アドレス <http://www.library.sosa.chiba.jp>

問 八日市場図書館 ☎73-3746

(17時まで)

初心者から気軽に楽しめます！

「寿大学」生きがい講座

寿大学は、おおむね60歳以上の皆さんなら、どなたでも参加できる公民館講座です。各講座とも6月から平成22年1月までの開催となります。八日市場公民館事務室にある申込書に記入して窓口へ提出してください。電話での仮予約もできます。※受講は1人2講座までで、定員のある講座は先着順です。

問 八日市場公民館 ☎72-0735

タイトル	内容	時	定員	講師
園芸	基本から学び、美しい菊を咲かせましょう。	第1土曜日の13:30～15:30	20	伊藤嘉英
民謡	お腹から声をだして、楽しく唄いましょう。	第4金曜日の13:30～15:30	なし	越川茂子 松岡祐司
舞踊	楽しくみんなで舞いましょう。	第1金曜日の13:30～15:30	なし	辰巳栄壽
社交ダンス	ブルース・ルンバなど基本から学べます。	第2金曜日の13:30～15:30	なし	塚本昇
詩吟	日本古来の詩文が学べます。	第2火曜日の13:30～15:30	なし	勝股修峰
カラオケ	大きな声で、明るく楽しく歌いましょう。	第3火曜日の13:30～15:30	なし	岡田陽子
手芸	小物作りを楽しみましょう。	第3水曜日の9:00～15:30	30	増田アイ
書道	心静かに、筆を握ってみませんか。	第2水曜日の13:30～15:30	30	岩瀬東歌
いすで楽しむ茶の湯	気楽に、いすの茶の湯を楽しみましょう。	第2木曜日の13:30～15:30	20	篠崎ケイ子
川柳	日常の感じたことを、五七五で表現してみませんか。	第2金曜日の13:30～15:30	30	高梨果宝
俳句	世界最短の詩、俳句を詠んでみませんか。	第2金曜日の13:00～15:30	20	西野棠雨
短歌	短歌で自分の想いを伝えましょう。	第2日曜日の13:30～15:30	20	小泉泰清

文芸コーナー

短歌

土屋 耕一 推薦

如月の寒き日なれど畑隅に黄に輝ける菜花一むら
 わが庭の雀の群れは恋時か陸み合ふ声こもり鳴く声
 大浦 椎名かね子

古りたれど見目よき雛の飾られて老人ホームのフロア華やぐ
 八日市場イ 中川いね子
 物臭で雛人形を何年も出さず仕舞を節句に詫びる
 西小笹 伊藤 英子

ふかし芋好みし夫に供ふれば湯気は立ちゆく朝のしじまに
 平木 大木ヨシ子
 戸を閉ざし住む人絶えし庭隅の咲く白菊に姉偲ばれる
 荻野 川口 登喜

乗り降りの少なくなりし無人駅ホームレスの物か毛布丸めあり
 時曾根 南波 鹿子
 歩くのみただ黙々と歩くのみそこに何かがあると信じて
 八日市場イ 椎名 昭雄

川口 城司 推薦

黄水仙の陽に真向ひて列をなしラップ吹きつつ風に遊べり
 野手 伊橋 良子
 耕作を委ねたる田を見渡してこの淋しさよ老いて知りたり
 栢田 渡辺 重雄

幾十種並ぶ花苗その中のクリスマスローズ二株を買ふ
 野手 石田 秀子

俳句

西野 棠雨 推薦

春暁や夢見たやうな見ぬやうな
 高 中村 和子
 春寒やすき間だらけの大師堂
 上谷中 八木佐久司

五月の風景

激動の時代を生きつづけて

匠瑛 探訪

- 37 -



図書館に本を寄贈した椿もとさん

田植えがすんであたりが新緑につつまれ、すがすがしさを感ずる季節となりました。「本書は、八日市場（現匝瑳市）の農家の女性、大正7年（1918）生まれの椿もとの語り、生活史として受け止め、録音し、出来る限り忠実に記録し、編集したものである。」と、冒頭に書かれた『八日市場の土に生きる―聞き書き 椿もとの生活史―』という本がこの春、市立図書館に寄贈されました。この本は、八千代市在住の

（ももひき）、田植前掛（まえかけ）があり、男は無地、女は若い人ほど緋（かすり）の柄が大きかったと語っています。「それにしても、あの頃はよく裸足で田へ入り、仕事が出来たものと思う。」と語り、やがて田植足袋（たび）からゴム足袋に変わったそうです。「当時の気候は6月に田植え、10月に稲刈りが普通だった。それが今は4月に田植え、8月に稲刈りが当たり前になっている。農作業は2か月も早

岩本紀子さんが内山新田（豊和地区）の椿さんを訪ね、数年かけてインタビュー取材し、まとめたものです。その中の「八日市場の農事暦」5月を見ると、田植えの作業衣について、その昔は、「田植襦袢（じゅばん）、田植股引

まっている。」と語り、農作業が機械化された現在とでは田植えだけでもこれだけの変化があります。90余年生き抜いた椿さんの生活史は、250ページ余りの半分ほどが「戦争、敗戦、（戦後の）新しい風」として20代からほぼ20年間がつづられ、たくましさを感じられま

そうした体験の数々は激動の時代とされる戦前、戦後生きられた人たちに共通する思いが込められているようにも思われます。「60歳からの生きがい探し」では、公民館講座で習字や民謡を習ったこと、67歳での運転免許取得なども描かれています。岩本さんはあとがきで、「私が、椿もとさんの話に魅入られたのは、「嫁のけつたき」と「どじょうたたき」の話があまりにも面白かったからである。」と述べています。市内にはこうした体験や話を知っている人もまだまだ多いでしょう。しかし、急速に変化する生活の中で忘れ去られようとしている今、「一農村の女性の生活史」がまとめられたことで、後世に伝えられることでしょう。

八日市場図書館 ☎73・3746

あて先：匝瑳市秘書課広報広聴班
〒289-2198
匝瑳市八日市場ハ793番地2
☎73・0080 FAX72・1114

水き日の音の沁み込む檜皮葺
水嵩の昨日より増す鳥雲り
摺粉木の広げる香り木の芽和え
忘れたるままごと道具春の雨
いたはりの言葉嬉しき春の雨
木の芽雨打つ廃屋の硝子窓

川柳

書初墨の香匂ふ夜のしじま
揚雲雀やっと思出し見失ふ
寄る波の遠くにかすむ刑部岬

高梨 果宝 推薦

川口 城司 推薦

永き日の音の沁み込む檜皮葺	八日市場ハ	大川 宣子
水嵩の昨日より増す鳥雲り	八日市場二	中川まさ子
摺粉木の広げる香り木の芽和え	横須賀	岩井 やす
忘れたるままごと道具春の雨	高	伊藤 友子
いたはりの言葉嬉しき春の雨	上谷中	太田三樹夫
木の芽雨打つ廃屋の硝子窓	春海	浜野 隆志
書初墨の香匂ふ夜のしじま	野手	山口 静堂
揚雲雀やっと思出し見失ふ	栢田	伊藤 定子
寄る波の遠くにかすむ刑部岬	堀川	高野 操
不景気も希望を棄てず花巡り	長谷	石毛惣一郎
待望の拉致問題は進歩せず	八日市場木	鎌形ミツエ
初孫のニュースを待って縫う産着	八日市場木	菱木 静枝
待望のWBC二連勝	平木	平山 右
不況などどこ吹く風の浅草寺	八日市場イ	河野十九人
スーパリーの共倒れ出る不況風	八日市場イ	伊藤さとこ
いつの間に混乱おきた脳回路	八日市場イ	常世田やす子
若い気がガラスへ映る背が丸い	上谷中	吉成かえで
日の丸で世界制覇の野球国	川 辺	嶋田テル子
見て思う傘寿の母の歴史知る	川 辺	及川 利道